



The Japanese Group Dynamics Association

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

第 47 号

(2015 年 8 月 27 日)

発行所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学教育発達科学研究科 心理社会行動科学講座
 高井次郎研究室
 日本グループ・ダイナミクス学会
 E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp
 発行人：高井次郎 編集担当：植村善太郎

【 目 次 】

§ 日本グループ・ダイナミクス学会第 62 回大会へのお誘い	2
★ 大会準備委員長から：西道 実	
§ 学会役員改選・交代について	3
★ 新会長のご挨拶：高井次郎	
★ 退任のご挨拶：唐沢かおり	
★ 2015-2016 年度役員選挙の経過と結果：角山 剛	
§ 事務局からのお知らせとお願い	8
★ 研究の国際化支援制度（英文校閲補助）について	
★ 実験社会心理学研究 掲載予定論文（2015 年 6 月 1 日現在）	
★ 実験社会心理学研究の特集テーマ募集	
§ グルダイ学会関係連絡先	9

★★★ 日本グループ・ダイナミックス学会第 62 回大会へのお誘い ★★★

大会準備委員長 西道 実（奈良大学）

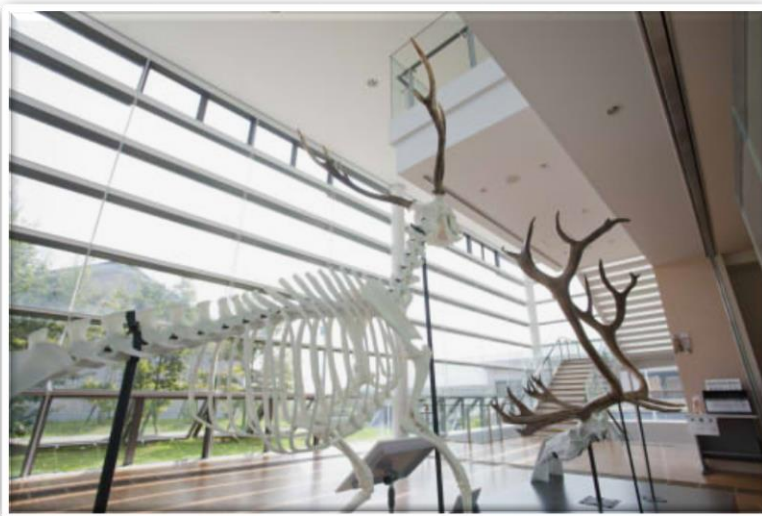
本年度の大会まで、あと2ヶ月ほど。準備委員会ではプログラムの編成を終え、印刷物の校正を進めております。ご登録をいただいた発表総数は90件でした。あまり良いとはいえない日程での開催ですが、多くの方にご登録をいただき感謝しております。

会場となります奈良大学は、奈良市の中心部から6kmほど北西に位置する丘陵地にあります。最寄り駅は近鉄京都線「高の原」駅で、そこから徒歩で18分、バスで5分の距離です。バスは大学前に停車するルートと構内に入ってくるルートの二系統が運行されていますが、1時間に2本程度で利便性は高くありません。そのため、大会期間中は15分間隔で運行ができるように臨時バスの運行を依頼しようと思っています。

肝心のプログラムですが、今大会の特徴？というべきでしょうか、講演とシンポジウムは企画されておられません。これはひとえに準備委員長である私の力不足によるものですが、他方、研究者の交流を支援する黒子役を重視するという方針でもあります。いうなれば「黒子の学会」。漫画のタイトルのようなのですが、ご参加くださる会員の交流に主眼を置いて、居心地のよい会場づくりをしたいと考えています。ちなみに、コンセプトは「ゆったりコンパクト」。こちらは軽自動車のセールスコピーのようなのですが、学内施設を可能なかぎり効率よく活用して、ゆったりとした交流ができるようにしつらえを工夫したいと考えています。

また、懇親会も学内施設での開催を予定しています。予算の制約上、名を取るか実を取るかの選択でしたが、実を取ることにしました。皆さまの中には、菊水楼や奈良ホテルを期待された方もいらっしゃるのではないかと思います。会場費は節約して、実の方で張り合ってみたいと思います。学内に奈良市内が一望できる場所がありますので、奈良の街を眼下に楽しい交流のひと時が演出できると考えています。ちょっとした（本当にちょっとした）余興も準備できると思いますので、どうぞ楽しみにお越しください。

ただ、心配事もあります。天候に恵まれれば、開催日のどちらかが、附属幼稚園の運動会と重なります。保護者の車が学内の駐車場を埋め、隣接するグ



ラウンドでは元気いっぱいの声や鳴り物，保護者の声援などが響きわたることでしょう。

大会時は秋の行楽シーズンです。奈良はもとより京都も大阪も宿泊施設が逼迫する時期にあたります。航空機や新幹線などのチケットも心配です。どうぞお早目にお手配をしていただき，ゆるーい空気とゆっくりとした時間の流れる奈良にゆったりとお越しいただければと思っています。皆さまのご参加を，準備委員一同，心よりお待ちしております。

★★★ 学会役員改選・交代について ★★★

【 新会長のご挨拶 】

高井次郎（名古屋大学）

この4月より2017年3月までの2年間，会長を務めさせていただくことになりました。直前の4年間，渉外担当常任理事を務めさせていただいているため，最近の学会の方向性や動向を追ってまいりましたが，実に力動的な時期でした。

ここ数年でグルダイの最も大きな変動はアジア社会心理学会（AASP）との財政支援関係の解消です。昨年の12月をもちまして，1997年から17年間にわたって学会誌（AJSP=Asian Journal of Social Psychology）の購入を通じて行ってきた財政支援を終了させました。当時この支援を実現させるために，学会に大きな負担をかけ，会費の大幅な値上げが避けられず，会員の減少を招きました。しかし，歴代会長および事務局長の努力で「学術定期刊行物」の助成金を受給されるようにより負担が軽減され，数年前からやっと会費も減額することができました。あいにくこの助成制度も2013年をもって終了したため，再び会費の増額かAASP支援の打ち切りかの選択を強いられることになりました。さすが，会費の増額はありえないため，後者を選択せざるを得なく，山口裕幸前々会長および唐沢かおり前会長のもとでAASPおよびWiley-Blackwellと地道な交渉の成果として，円満に支援を終えることができました。

財政的な負担がなくなったことは実に朗報なのですが，その一方でグルダイならではの国際色が薄れてしまうことになりました。特に，昨今グローバル30やスーパーグローバル大学の発足に代表される，日本の高等教育政策や学術的国際化のラッシュの時代に突入しています。そのなかで，グルダイの国際化対策が一步後退することになります。AJSPの共同刊行はグルダイの国際性の象徴でもあったのは間違いなく，わが国の他の心理学関連学会では唯一無二と言えたでしょう。

したがって、グルダイの国際色を諦めるわけには行きません。ポスト AJSP の最も優先すべき課題は国際性の新たな対策を検討することです。昨年から文科省が国立大学の「文系不要論」を度々強調してきております。理系基準主導で学問が評価され、国際的なインパクトと研究生産性のある学問だけが生き残れる、ということなのでしょう。研究助成金の獲得とその金額、論文数のみならずその引用数や掲載誌のインパクトファクター、海外との共同研究や提携など、主に小規模の国内活動に向いている文系学問にはいずれも難題です。そのなかで文系学会こそ、各学問の真価をアピールしなければなりません。学会は、会員が実施している研究を国内にとどめず、海外に発信させる役割が期待されます。

では、ポスト AJSP のグルダイとして何ができるのでしょうか。あくまでも個人的な可能性の模索ですが、グルダイの国際的プレゼンスを高めるために次のようなことが実現できるかと思います。

まず、これまで築き上げてきた AASP との関係を解消するのではなく、新たな関係を開始することです。グルダイは AJSP の発行以外にも、AJSP の優秀論文賞に授与する「三隅賞」を提供しています。この賞は、故三隅二不二先生が提供してくださった基金をもとに、グルダイが三隅賞の審査（AASP と共同で）および賞金の提供を行ってきました。今年の AASP 大会で、ようやく基金も枯渇してしまい、今後は賞金の提供は難しくなります。その一方で、賞金がなくても賞自体の存続を AASP 側も熱望しており、AASP との提携の一部としてこの三隅賞の審査・授与を続けていくことに大きな意義を感じます。金銭的な負担なしで、三隅賞は続けていけるのであればグルダイの国際性にとっては絶好のチャンスです。

次に、大学院生海外発表支援制度を、AASP 大会に限定して設けてきました。AJSP の刊行費用による財政的な圧迫がなくなったことで、この制度を拡充する時期がきたのではないのでしょうか。まずは、支援対象を隔年の AASP 大会に限定した制約を解消し、隔年ではなく毎年、海外のどの学会も対象とし、支援額も増額することを現在検討しています。

AJSP 支援以前、かつてグルダイは英文誌に手掛けていた経緯があります。20 年昔の話で、若年会員には初耳かもしれませんが、「実験社会心理学研究」は各巻 3 号のうち、一号は英文論文によって構成されていました。当時は英文論文の投稿数を確保するのが難題でした。もしも英文号を復活させるのであれば、時代も変わっているので、今ならば十分に投稿希望者がいるのではないのでしょうか。もちろん、英文で投稿できるほどの実力のある会員はインパクトファクターの付く海外誌を選択するでしょう。しかし、ターゲットとするのはこのような方ではなく、初めての英文投稿を志す若手研究者です。和文誌に初めての論文を掲載した後、次の目標として英文誌への投稿を考えている人、いきなりハードルの高い海外誌へ投稿するよりも、国内の英文誌に投稿する方が安心感が得られると思います。それは査読者が同じ日本の学会の会員であり、日本で行われている研究の良さを理解しているからです。私自身、海外誌の編集者に「あなたの研究は日本人を対象にしている。

結果は日本人独特なので、本誌の性格に合わず、文化に関連する雑誌に投稿したらどうか」という差別的な理由により、editor reject（投稿窓口での拒否）をされたことがあります。せっかく勇気を出して英文誌に投稿したのに、こうした西洋のヘゲモニー(hegemony)の犠牲になり、意気消沈されることなく、まずは英文誌の入門的な位置づけとして「実験社会心理学研究」の英文号があれば国内の若手研究者の国際化に貢献できるはずです。ちなみに、従来は投稿を促すためすでに邦文で実験社会心理学研究に掲載された論文を、英文として再掲載することを許されていましたが、「剽窃」や「自己剽窃」が騒がれる今ではこうしたことはできません。

最後に、AASP との提携の経験を有するからこそ、それを活かして、次の新たな海外学会と新たな形態での共同活動を模索できるのではないのでしょうか。AASP とのこれまでの関係から、グルダイには国際派が多く集まっており、こうした方々を介して海外の研究者とのつながりも広く確立できる可能性を秘めています。

以上のように、グルダイはこれまで国際色を売り物にしてきた歴史があります。それゆえに、会員もグルダイには国際性で日本の心理学関連学会をリードすることを期待しているはずです。今期中にこれから先のグルダイの国際対策のビジョンを築き上げていきたいと思っております。会員の皆さまには、本学会のこうした活動にぜひご関心をお持ちいただき、お力添えをお願いいたします。

【 退任のご挨拶 】

唐沢かおり（東京大学）

この 2 年間、どこまで会長に求められる責務を果たせたのか、はなはだ心もとないのですが、会員の皆様、理事そして常任理事の先生方のご協力、ご支援のもと、なんとか無事に任期を終了することができました。

会長と言う立場で学会の運営をお預かりして、まず取り組むべき課題として目の前にあったのは、学会の財政再建、およびその一方策としての、アジア社会心理学会（AASP）とのパートナーシップの再検討でした。学会に入会する若手研究者の数は、昨今の大学情勢と少子高齢化を反映し、減少傾向にあります。他の多くの人文系・社会科学系学会がそのような傾向の元にあることは、同僚の教員からも仄聞しておりましたが、グループ・ダイナミックス学会もその例外ではありません。そのような中、財政的に安定した学会運営を可能にするためには、支出の見直しが必須でした。

前任の山口裕幸会長の期において、Asian Journal of Social Psychology (AJSP) を、本学会会員が購入することを、一定の期間を経て停止し、AASP が自立して AJSP を維持す

る方向での交渉がすでに始まっておりました。これについては、科研費による出版助成制度の変革に伴って、AJSP に対する助成を得ることが困難となり、学会の財政を圧迫することが確実になるという背景もありました。本学会は、AJSP の共同刊行と言う形で、AASP の基盤を十数年にわたって支えてきており、AASP とは緊密なパートナーシップを維持しておりましたので、共同刊行の停止により、AJSP の刊行が危ぶまれる事態になることは避けたいところでした。出版者である Wiley 社も交え、慎重に交渉を重ねてきましたが、幸いにして、他の財政的支援を得る見通しが立ち、昨年をもって、日本グループ・ダイナミックス学会は、AJSP の共同刊行事業から撤退することになりました。

当該事業からの撤退は、大変残念なことではございますが、会費の再値上げを回避しつつ、基本的な学会活動・会員サービスを維持するために必要な措置として、2 期にわたり交渉を重ねてきた結果として、ご理解いただければ幸いです。

この件が、私が会長をつとめていた期における、学会としてのもっとも大きな意思決定でした。またその他、前期から引き継いだ新しいホームページの立ち上げと、その運用の仕組みの策定、諸規定の文言の見直し・統一など、学会活動の基盤となる諸側面を整えつつ、「実験社会心理学研究」や学会大会、学会賞の運営を安定的に維持することを重視してきました。

これらいずれも、担当の常任理事の先生の多大なご尽力の賜物であり、学会そのものは、財政的・制度的に安定してまいりました。しかし、一方で、学会が会員の皆様にとって、魅力ある活動の場となるためには、さらなる努力が必要であると考えております。この点への取り組みは、今期理事会、常任理事会にお願いする事項となります。幸いにして、若手からベテランまで、ご活躍の実績をお持ちの先生方が学会運営に参画していただいておりますので、高井会長のリーダーシップの元、着々と進むのではないかと期待しております。

2 年間を振り返り、至らぬことが多かったのですが、無事に任期を終えることができたのは、皆様のおかげです。最後になりますが、改めて、学会運営にご尽力いただきました、多くの先生方に心より感謝申し上げます。

【 2015-2016 年度役員選挙の経過と結果 】

角山 剛（東京未来大学）

選挙管理委員会：角山剛（委員長）、礒部智加衣、新谷優

選挙管理事務局：戸梶亜紀彦（常任理事）

(1) 会長，理事，監事選挙

選挙方法および期間：全会員を対象に郵送投票 2014 年 11 月 10 日～12 月 5 日

開票：2014 年 12 月 12 日 東洋大学（白山キャンパス）5 号館 5309 教室

作業者：選挙管理委員会委員（角山剛，戸梶亜紀彦，磯部智加衣，新谷優）

投票総数：144

無効投票：16（内封筒なし 2，内封筒厳封なし 1，投票用紙に押印 1，期限超過到着 12）

以下のとおり，選出された。（同一区分内は五十音順）

[会長] 高井次郎

[全国区理事]（*：40 歳未満枠）

渥美公秀

五十嵐祐*

小川一美

清水裕士*

竹内みちる*

三浦麻子

宮本匠*

矢守克也

有倉巳幸

[地方区理事]

（北海道）今川民雄，（東北）辻本昌弘，（関東）宮本聡介，村本由紀子，

（中部）北折充隆，（近畿）元吉忠寛，山口洋典，（中国・四国）中島健一郎，

（九州・沖縄）植村善太郎

[監査] 斎藤和志，八ッ塚一郎

(2) 会長指名理事信任投票

方法および期間：選出理事 18 名によるメール投票 2015 年 1 月 20 日～23 日

以下の 2 名が 18 名全員から信任された。

石井敬子，西田公昭

(3) 常任理事選挙

選挙方法および期間：会長を除く理事 20 名による郵送投票 2015 年 1 月 29 日～2 月 4 日

開票：2015 年 2 月 11 日 東洋大学（白山キャンパス）戸梶研究室

作業者：選挙管理委員会委員（戸梶亜紀彦，角山剛）

投票結果（4 名連記）

有権者数：20 名

有効投票者数：17 名

無効投票者数：2 名（消印期日超過）

有効票：68

無効票：0

[常任理事]（五十音順）

植村善太郎，中島健一郎，宮本匠，有倉巳幸

(4) 会長指名常任理事信任投票

方法および期間：会長を除く理事 20 名によるメール投票 2015 年 2 月 11 日～13 日

投票結果

有権者数 20 名，投票者数 20 名

以下の 2 名が信任された。

今川民雄，北折充隆

★★★ 事務局からのお知らせ ★★★

【 研究の国際化支援制度（英文校閲補助）について 】

この制度は，本学会会員の研究の国際化を支援するため，会員が自らの研究成果を英文誌に投稿する際の英文校閲代金を一部補助するものです。年齢の制限などはありませんので，皆さま奮って申請してください。

詳細は学会ホームページ(http://www.groupdynamics.gr.jp/support_international.html)
をご参照下さい。

【 実験社会心理学研究 掲載予定論文 】

■ 2015 年度 55 号第 1 号 掲載予定論文 (2015 年 9 月発行予定)

原著論文

松尾 藍・吉田富二雄

性ステレオタイプが人物の否定的印象を緩和する効果

鈴木公啓

体型印象管理予期と他者の親密度および性別 ー 瘦身を望む若年女性においてー

【 実験社会心理学研究の特集テーマ募集 】

実験社会心理学研究では、グループ・ダイナミックスや社会心理学に関連する特集を掲載します。特集は、特定のテーマのもとに論文 3 編程度により構成されます。

特集についての企画をお持ちの会員は、企画の趣旨、特集論文の概要等をまとめた企画書 (A4 版 1-2 枚程度) を編集委員長に提出して下さい。企画の採択については、常任編集委員会で審議のうえ決定します。特集論文の審査手順などに関する詳細は、学会ホームページ(<http://www.groupdynamics.gr.jp/feature.html>)をご参照ください。

なお実験社会心理学研究は、特集の掲載によって一般投稿論文の掲載に大幅な遅滞が生じないことを重視しています。企画を提出される方は、この点をご承知おきください。

★★★ グルダイ学会関係連絡先 ★★★

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌等の未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先は、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。

また、論文投稿先・審査書類送付先も中西印刷株式会社となっております。詳細は下記をご覧ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

事務支局【入退会、住所・所属等変更、その他お問い合わせ先】

日本グループ・ダイナミックス学会事務支局
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷（株）学会フォーラム内
電話：075-415-3661
FAX：075-415-3662
E-mail：jgda@nacos.com

学会運営・対外業務関連

日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局
〒463-8521 名古屋市守山区大森 2-1723
金城学院大学 人間科学部 多元心理学科 北折充隆研究室
電話：052-798-0180(代表)
E-mail：sec-general@groupdynamics.gr.jp

学会広報関連

植村善太郎
〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1-1 福岡教育大学教育学部 幼児教育講座
E-mail：sec-general@groupdynamics.gr.jp

投稿論文・学会誌編集関連

【論文投稿先・審査書類送付先】

日本グループ・ダイナミックス学会 編集事務局
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷（株）内
電話：075-441-3155
FAX：075-417-2050
E-mail：jjesp-hen@groupdynamics.gr.jp

【編集委員長】

今川民雄
〒004-8631 北海道札幌市厚別区大谷地西 2-3-1 北星学園大学社会福祉学部
E-mail：imagawa@hokusei.ac.jp

広報関連

【ぐるだいニュースの編集・記事の投稿，メールマガジンへのニュース記事投稿，新刊案内や研究会案内等のニュース記事，書評，公募情報など】

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1-1

福岡教育大学教育学部 幼児教育講座 植村善太郎

E-mail : office@groupdynamics.gr.jp までお送りください。

また、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

=====

【編集後記】

今号から担当することになりましたが、関係者の皆様のおかげで、なんとかこの第47号を発行することができました。ありがとうございました。また、編集作業に時間を要し、発行が遅くなりまして、大変申し訳ありません。内容は、これからますます（じわじわ？ぼちぼち？）充実させて行きたいと考えております。会員の皆様をお願いすることも出てくると思いますが、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。また、内容等について、ご意見等頂ければ幸いです。（編集子）